

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 28 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：21520581

研究課題名（和文）グローバル化における小学校英語教育と英語教員養成プログラムの研究

研究課題名（英文）A Research on Elementary English Education and English Teacher-Training Programs towards Globalization

研究代表者 與儀 峰奈子 (YOGI MINAKO)

国立大学法人琉球大学・教育学部・准教授

研究者番号：80284933

研究成果の概要（和文）：

本研究はグローバル化時代における小学校英語教育カリキュラム、英語教員養成、現職教員の再教育の効果的な在り方について調査・分析を行い、提言することを目的とし研究を遂行してきた。

ボーダーレスな時代を迎え、英語教員の資質として「英語運用能力」「英語教授力」「異文化理解」「自文化理解・発信」「グローバルな視野」等が更に要求されるようになり、このような特質を備えた英語教員養成を実施するための一方策として、2010年から英語教員養成系授業においてEUや米国の教育機関と遠隔通信交流を取り入れた模擬授業を展開している。その内容は英語教員志望学生の資質向上のために教材研究を深め、リアルタイム通信を用い、英語による学校・地域文化紹介、模擬授業、沖縄関連教材の発表を含む参画型実践授業である。この一連の活動の英語教員養成プログラムへの導入や英語教員の再教育のための方法論等を明確化させながら教育現場や教育機関へフィードバックを行った。研究成果の詳細については5つの国際学会で口頭発表を行い、3篇の論文として国際学会誌に掲載した

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to investigate and make recommendations about three areas; elementary English curriculum, English teacher education, and in-service teacher-training in our global era.

In the present globalized society, English teachers are expected to have the following qualities: English language competence, English teaching techniques, cross-cultural understanding, and global perspectives. In order to develop the qualities of pre-service teachers, starting from 2010, this research project implemented videoconferencing into English teacher training courses to explore its effectiveness and potential. On the basis of partnership with European educational institutions and US universities, videoconference collaborations were incorporated into teacher-training classes as an extension of micro-teaching. Student teachers gathered information on a topic related to their regional culture, created reading materials, slides, and prepared for live micro-teaching sessions in order to improve their language competence, communication skills, teaching and presentation techniques, material development, and cultural awareness. The findings of this study were shared among local school districts and educational institutions. They were also presented at five international conferences, and published in three international journals.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：(1) 小学校英語教育 (2) 英語教員養成 (3) グローバリゼーション (4) 英語教育カリキュラム
(5) 遠隔交流 (6) 国際理解教育 (7) 英語教員研修 (8) 教育インターンシップ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の所属学科では、英語教員養成プログラムの充実・強化を図るために、平成 13 年度から英語教員養成の一環として、小学校英語活動に英語教員志望学生を「参画」させ英語実践授業を実施してきた。本格的に小学校で英語が教科として導入され、人的資源と物的資源が質・量的に確保されたが、一方で各大学の実践系科目の増設に伴い、教育現場の負担が増加し、安定的な授業実践校確保が困難な状況になってきた。参画重視の理念を維持しながらの有益で効率的なプログラムの必要性の観点から、過去の ICT 遠隔交流の実績を「英語科教育法」のクラスに融合し、教室にいながら海外の教員・生徒と触れ合い模擬授業をグローバルに展開することの意義を見出したのがこの研究の原点である。

2. 研究の目的

本研究はグローバリゼーション時代における英語教育カリキュラム、英語教員養成、現職教員の再教育の効果的な在り方について調査・分析を行い、沖縄県内の教育機関に対し提言することを目的とした。

ボーダーレスな時代を迎え、英語教員の資質として「英語運用能力」「英語教授力」「異文化理解」「自文化理解・発信」「グローバルな視野」等が更に要求されるようになった。このような特質を備えた英語教員養成を実施するための一方策として、2010 年から英語教員養成系授業において EU の教育機関および米国の大学と遠隔通信交流を実施している。その内容としては英語教員志望学生の資質向上のために、リアルタイム通信を用い、英語による学校・地域文化紹介、模擬授業、沖縄関連教材の発表を含む参画型実践を行っている。小中高と海外の教育機関との遠隔公開授業を実施し参画型交流学习を試みるなど、継続的な遠隔交流を通して連携体制を積み上げている。この一連の活動のカリキュラムへの導入や教員の再教育のための方法論を明確化させながら教育現場や教育センターへ

フィードバックを行った。

3. 研究の方法

英語教育現地調査および教育関係者へのインタビュー調査 (EU 圏日本人学校[4 校]、EU 圏公立高等学校 (1 校)。遠隔通信交流を導入した英語教育公開授業実施・収録記録分析および教育関係者へ現職教員の再教育の一環として提言 (小中高大英語クラス)。英語教員養成系授業における遠隔通信交流共同学習および英語模擬授業実践。それに伴う教材開発、授業収録・分析、事前事後アンケート調査、学生リフレクションシート分析・考察。

4. 研究成果

本研究はグローバリゼーション時代における英語教育カリキュラム、英語教員養成、現職教員の再教育の効果的な在り方について調査・分析を行い、沖縄県内の教育機関に対し提言することを目的とした。上記に関し海外の現地調査の成果を踏まえながら、現実的で革新的なアプローチを実施するために小中高の英語の授業と大学の英語教員養成系授業に遠隔交流を融合した形で実践授業(10回)を行った。

英語の授業における遠隔通信交流の効果に関するアンケート (抜粋)

項目	小学 4 年 (59) 交流 1 回	中学 1-3 年 (28) 交流 1 回	高校 1 年 (20) 交流 1 回	大学 1 年 農 学・工 学部 (33) 交流 4 回
1) 遠隔交流を体験できて有益であった。	94.9	96.4	95	100
2) 遠隔交流を通して自文化・他文化や言語に興味関心を持つようになった。	93.2	96.4	90	97
3) 遠隔交流を通して英語学習への意欲が高まった。	93.2	96.4	95	90

上記のアンケート結果(抜粋)からも明らかのように9割以上の小中高大学生が項目1, 2, 3 に関し肯定的な支持をしている。このプログラム実施を通し遠隔交流の有用性や自他文化および言語に対する興味関心の高まり、英語学習への意欲の向上などが確認できる。生徒の感想にはリアルタイムで直接顔を見ながらコミュニケーションを図ることができ相手をより身近に感じ興味・関心が高まる。発表することで自信がつき自分の英語が通じた喜びを感じる、自他文化の共通点や相違点が見え刺激を受けた、グローバル言語である英語の重要性を感じ英語力を伸ばしたいという意識の確立等が主に挙げられる。参加した現職教員や教育関係者の感想としては、普段みられない生徒の積極性が見られ異文化や英語に対する学習意欲の高まりを感じる、教室にいながらリアルタイムで異文化接触を体感できるので効果的かつ有益である、また自分自身でも企画・実施に挑戦してみたいなどの意見が得られ、現職教員の再教育も含めた生の情報の提供やグローバル時代に見合った革新的な教授法の事例を提言でき当初の目的を果たしたと言える。

2010年から2013年にかけて英語教員養成系科目に遠隔交流体験を有機的に関連付けて16回の遠隔交流実践授業を実施した。英語教員志望学生対象に行ったアンケート調査の結果を8つの観点に絞り以下のようにまとめた。

英語教員志望学生を対象とした遠隔通信交流を通じた英語実践授業の効果に関するアンケート結果(抜粋)

	8観点(項目) (肯定的回答の集計)	クラス1,2,3 2010-2013 79名
1	協同学習を通じた学び合いと自律の場としての重要性	88.3%
2	自他言語・文化への興味関心の高まり	96.6%
3	グローバルな視野の拡大	99%
4	現実的な場面設定を通じた英語コミュニケーション能力、プレゼンテーションスキルの向上	97.6%
5	英語教師としての資質向上:英語指導技術や教材研究の改善	98.6%
6	交流相手から得たメンター的なアドバイスの効果	95.3%
7	動機づけ:意欲、使命感、責任感の拡大	93%
8	自己の能力を省察する機会および教職のイメージ作りとしての重要性	94%

上記のアンケート結果から明らかのように、観点1の協同学習の項目以外は9割以上の英語教員志望学生が肯定的な反応を示している。外国にいる交流相手とリアルタイムの英語コミュニケーション活動を体験して自己の英語力を再確認し、即興性や説得力のあるコミュニケーションスキルの重要性にも気づき、向上心(学習意欲)が高まる。現職教員や生徒からの的確な反応・助言が得られ、教職や専門分野に関する知識や視野が広がる。現実的な模擬授業の場、海外の聴衆対象に教師としての力量を発揮する場が提供され、学生の実践的指導力が大幅に向上する。お互いの発表に触れ、自他文化への興味関心が高まりグローバルな視野が拡大する。海外の交流相手を思い入念な教材研究や綿密な授業設計を試み、普段クラスメート同志の模擬授業では見られない使命感に満ちた姿勢が伺える。このようにグローバルで現実的な状況設定の基で英語コミュニケーション、プレゼンテーション、意見交換、模擬授業等を継続的に展開すると、学生の語学力、異文化理解力、発信力、発表力、実践的指導力が向上され、ひいては英語教員養成の質的改善に寄与すると確信する。

まとめ

ICT技術の恩恵を受けて可能となった遠隔交流は、グローバル時代にふさわしい開放性と柔軟性を兼ね備えた語学および国際感覚を育成する活動として効果的である。英語の授業や英語教員養成系授業に遠隔交流活動を融合させることで学生は身を持って言語、文化、コミュニケーションや発表スキルなどグローバル化社会に不可欠な要因を体感する。

今後、遠隔交流を「英語教育カリキュラム」、「英語教員養成」、「現職教員の再教育」の各プログラムの中に有機的に連動し組織的、専門的、体系的に位置付け効果的に運営するための方法論を検討する必要がある。本活動を実施する際の課題として特に明記すべき点は1)ビデオ会議システムの通信設定に関わる技術的課題、2)交流を行う時間帯や時期の検討(時差や学期の問題)、3)目的意識の共有等の準備段階における連携協力体制(有益な課題設定の工夫等)、4)パートナー校の選定(同専門・同世代または異専門・異世代のコラボレーション等)、5)単発または継続的・恒常的な運営・実施方法、6)グループ協同学習の工夫および交流・発表の事前準備・事後指導の

充実・強化による交流の質的量的向上、7) 遠隔交流連動型の英語教育・英語教員養成カリキュラム構築等が挙げられる。

既述したような遠隔交流体験が学生がグローバル社会で活躍するための素地を形成することに貢献し、国際対話能力(global literacy)、自文化や国家を超える視野(transcultural and transnational perspectives)、および文科省が掲げるような地球的視野に立って行動するための教員の資質能力を育む出発点となれば幸いに思う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- (1) YOGI, M. (與儀峰奈子) Implementing Teleconference for Pre-Service English Teacher Training and Collaborative Learning, *Asian EFL Journal, Professional Teaching Articles-CEBU Issue*, 査読有, Vol.62, 2012, 24-41.
- (2) YOGI, M. (與儀峰奈子) Exploring Videoconferencing for Teacher Education Programs in Japan, *International Journal of Wireless Information Networks & Business Information System (WINBIS) Volume 5: September-October Issue*, 査読無, 2012, 67-77.
- (3) YOGI, M. (與儀峰奈子) Utilizing ICT Videoconferencing for Pre-service English Teacher Training and Cultural Learning, *KOTESOL Proceedings*, 査読有, 2011, 263-276.

[学会発表] (計 5 件)

- (1) YOGI, M. (與儀峰奈子) and ISHIKAWA, R. (石川隆士) Developing Language and Teaching Skills Through Videoconferencing and Collaborative Projects: A Case Study of English Teacher Training Programs in Japan, *International Journal of Arts and Sciences*, March 18, 2013, University of Nevada, USA.
- (2) YOGI, M. (與儀峰奈子) Expanding Horizons Through Videoconferencing in English Teacher Training Programs in Japan, *International Conference and Workshop on TEFL & Applied Linguistics*, March 8, 2013, Ming Chuan University, Taiwan.
- (3) YOGI, M. (與儀峰奈子) Exploring Videoconferencing for Teacher Education Programs

in Japan. *International Conference on E-Education & Learning Technology ICEELT*, Aug. 13, 2012, Singapore (Changi Village).

(4) YOGI, M. (與儀峰奈子) Utilizing ICT Video Conferencing for Pre-service English Teacher Training and Cultural Learning, 19th KOTESOL International Conference, Oct.15, 2011, Sookmyung Women's Univ, Seoul, Korea.

(5) YOGI, M. (與儀峰奈子) Implementing Teleconference for Pre-service English Teacher Training and Cultural Learning, *Asian EFL Journal Conference*, Aug. 12, 2011, Univ. of Southern Philippines.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

與儀 峰奈子 (YOGI MINAKO)

国立大学法人琉球大学・教育学部・准教授
研究者番号：80284933

(2) 研究分担者

石川 隆士 (ISHIKAWA RYUJI)

国立大学法人琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：60315455